体外診断用医薬品
認証番号 21100AMZ00704000
区分：保険適用項目
D007-19: コレステロール分画

2018 年 12 月改訂（第 6 版） ※今回改訂
2015 年 12 月改訂（第 5 版）※前回改訂

ご使用の前に本添付文書をよくお読みください

クラスⅡ生化学検査用シリーズ「コレトリコンボ」

コレステロール分画キット

コレトリコンボ CH（QG）

【全般的な注意】

1. 本製品は体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 診断は、他の関連する検査結果や臨床状態に基づいて総合的に判断してください。
3. 添付文書以外の使用方法については保証致しません。
4. 使用する機器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

【形状・構造等（キットの構成）】

Cat.No.J818 コレトリコンボ CH

1. 酵素剤CH ・・・

4. エパライザ2 ジュニア（コレトリコンボ）

エパライザ2 ジュニア（蛋白分画電気泳動分析装置）では、登録したパラメータに従い検体の塗布、電気泳動、試薬の調整・反応、測定、分画値の算出まで自動で行います。
機器の操作方法については現場説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ CH/TG		J817
コレトリコンボ CH	(1.0mL用×10本)	J818
コレトリコンボ TG	(1.0mL用×10本)	J819
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
エパライザ2 ジュニア	
2項目試料調整ローラー E2	J665
ピペット	

2. 電気泳動パラメータ ※

＊検査項目名にマウスカーソルを合わせると表示されます。

処理モード	処理3
検体数／列	5
塗布列	2
塗布位置	No.4
塗布回数	2
サンプリング時間 (mmss)	00:05
採取量	ふつう
塗布時間(mmss)	
---20%	01:20
20.1%---40%	01:40
40.1%---60%	02:20
60.1%---	03:00
泳動時間 (mmss)	14:00
泳動電圧(V)	250
泳動温度(℃)	20
冷風ファン	ON
冷却時間(mmss)	
---20%	01:30
20.1%---40%	02:00
40.1%---60%	02:30
60.1%---	03:00
試薬調整数	12
試薬調整時間(秒)	091
試薬調整温度(℃)	30
反応・染色時間 (mmss)	10:00
反応・染色温度 (℃)	30
脱色・固定時間(mmss)	10:00
注入時間 (mmss)	00:40
放置時間 (mmss)	02:00
排出時間 (mmss)	00:40
サイクル	3
脱色・固定容器	1
乾燥(秒)時間(mmss)	14:00
乾燥(秒)温度(℃)	70

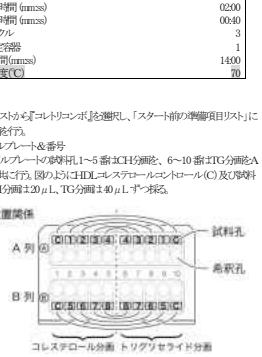
3. 準備

検査項目リストから「コレトリコンボ」を選択し、「スタート前の準備(項目リスト)」に従って準備を行う。

(1) サンプルプレート＆番号

1) サンプルプレートの試料孔1～5番はCH分画を、6～10番はTG分画をA列B列共に行う。図のようにHDLコレステロールコントロール(C)及び試料を、CH分画は20μL、TG分画は40μLずつ採る。

試料の位置関係



2) 乾燥加工板を重ねて搬送台にセットし、サンプルプレート番号を入力する。

(2) チャンバー蓋

ステーション1奥の泳動カバートレイに泳動カバーがセットされていることを確認する。

＊泳動カバーはホルダーの上にセットしてスタートすることも可能です。

(3) アプリケーターチップ

アプリケーターチップ2枚をアプリケーターユニットにセットする。

(4) 試薬&ローラー

1) 酵素剤CH を、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試薬CHとする。

2) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試薬TGとする。

3) 試薬カップに反応試薬CHを320μL 採り、試薬ポジ"1"の穴にセットする。

4) 試薬カップに反応試薬TGを320μL 採り、試薬ポジ"3"の穴にセットする。

5) 2項目試料調整ローラーをセットする。

＊試薬を溶解する際は激しく振ったりしないようにし、使用前に完全に溶解する。
2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

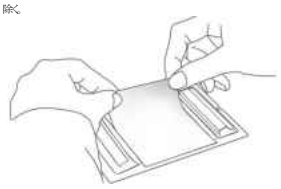
(5) ホルダー ※ ※※

クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。

1) REP－prep約0.5mLをステーション1の冷却孔にのせる。

2) クイックジェルをアルミ袋から取り出し、カセットからゆっくりと剥がす(注入孔2ヶ所の突起部がクボルミ部の溝をてください)。

3) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を吸い取り、直ぐに取り除く。



4) アガロース面を下に向けてプレートホルダーにセットし、プラスチック面についている余分なバッファーを濡れたペーパータオル等で拭きとる。

5) アガロース面を上に向けて冷却板上の間に気泡が入らぬ様にゆっくりと置く。

6) 必要ならばQC認識番号を入力する。

(6) 容器1(固定)

2%(v/v)酢酸を調製し、容器1に入れる。

4. 測定

全ての準備が完了するとスタートが表示されるので、クリックして検査を開始する(塗布から測定まで自動で行う)。

◇測定後のクイックジェルを保存する場合

クイックジェル両極のバッファーリッジを取り除き、30分間水洗後に乾燥させてください(部屋をニンックグラウンドが染まるのを防止します)。

5. 用手法（CH分画）

機器及び器具の操作方法については現場説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ CH	(1.0mL用×10本)	J818
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
クイックスキャン	
I.O.D.	J160
タイタンプラス パワーサプライ	1504
クイックジェル チャンバー P(電子冷却式)	J678
又は クイックジェル チャンバー(蓋冷却式)	J675
クイックジェル アプリケーター	J653
アプリケーターチップ	J636
サンプルプレート E2	J637
クイックジェル 試験調整ローラー	J657
クイックジェル 温障箱	J4062
クイックジェル 染脱色容器	J656
展開板	J670
ピペット	

2. 測定操作法 ※

試料量	30μL
塗布位置	3
塗布回数	2回
泳動電圧	220V
泳動温度(電子冷却式チャンバー使用)	20℃
泳動時間	15分間
反応温度	37℃
反応時間	15分間
固定時間	10分間
水洗時間	20分間
乾燥温度	約55℃
乾燥時間	約20分間

3. 準備 ※

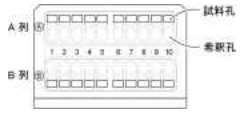
(1) 試薬の調製

1) 酵素剤CHを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試薬CHとする。

＊試薬を溶解する際は激しく振ったりしないようにし、使用前に完全に溶解する。
2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

(2) 試料の準備

試料30μLをサンプルプレートの試料孔A列1番から順に採る。(各列の1番にはHDLコレステロールコントロールを採る。)



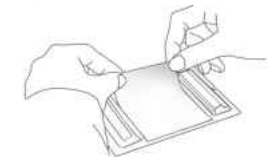
(3) 反応停止液の準備

5%(v/v)酢酸を調製し、染脱色容器に約250mL入れる。

(4) I.O.Dの用意

I.O.Dのドライヤー部を55℃、インキュベーター部を37℃にセットする。

(4) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を均一に吸い取り、直ぐに取り除く。



(5) クイックジェル アプリケーターの塗布位置を"3"に合わせる。

(6) アプリケーターに、試料を採取したサンプルプレートとアプリケーターチップをセットし、チャンバーにのせる。

(7) アプリケーターの取っ手を左に動かし、チップを試料に5秒間受け。取っ手を右に動かしてチップを引き上げ、さらに右に動かして試料を塗布する。

＊チップを試料から引き上げる速さは塗布量に影響します。常に一定の速さで操作するように注意してください。

(8) 2分間静置後、取っ手を左に動かしスタンバイ位置に戻す。

(9) この操作を繰り返し、3回塗布する。

(10) アプリケーターをチャンバーから取り外す。

(11) 電極端をセットしてチャンバーの蓋を閉め、温度切替スイッチを20℃にする。温度が20℃になったのを確認し、220Vで15分間泳動する。

クイックジェル チャンバー(蓋冷却式)を使用する場合
チャンバーに連結した蓋冷却器をセットし、速やかに(2)以降の操作を行う。

◇泳動終了後、温度切替スイッチを OFF にする(または蓋冷却器取り外す)。連続して泳動する場合は、チャンバーが室温に戻っていることを確認してから使用する。

5. 反応 ※

(1) 泳動終了後、クイックジェルをチャンバーから取り出す(バッファーリッジにバッファーが溶出していたらペーパータオル等でそっと吸い取る)。

(2) アガロース面を上にしてI.O.Dのインキュベーター部にクイックジェルを入れ、暖を開けた状態で温風を3～5分間かける。

(3) クイックジェルを取り出し、展開板の上に置く。

(4) 反応試液600μLを泳動面の一極側に滴下し、試薬調整ローラーを用いて試薬が完全に現反応するまで展開する約10 任秒。

(5) クイックジェルを展開板から剥がして温障箱に入れ、I.O.Dのインキュベーター部に入れて15分間反応させる。

6. 反応停止及び乾燥 ※

(1) 反応終了後、温障箱からクイックジェルを取り出し、3.(3)で調整した反応停止液に10分間入れて反応を停止させる。

(2) 染脱色容器に水を約250mL 入れ、クイックジェルを入れて20 分間洗浄する(その間2～3回水を交換する)。

(3) 洗浄後、両極のバッファーリッジを取り除く。

(4) アガロース面を上にしてI.O.Dのドライヤー部で完全に乾燥させる。

7. 測定

乾燥が終了したクイックジェルをデンシトメーターで測定する。

6. 用手法（コレトリコンボ）

機器及び器具の操作方法については現場説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器 ※

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ CH／TG		J817
コレトリコンボ CH	(1.0mL用×10本)	J818
コレトリコンボ TG	(1.0mL用×10本)	J819
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
クイックスキャン	
I.O.D.	J160
タイタンプラス パワーサプライ	1504
クイックジェル チャンバー P(電子冷却式)	J678
又は クイックジェル チャンバー(蓋冷却式)	J675
クイックジェル アプリケーター	J653
アプリケーターチップ	J636
サンプルプレート E2	J637
クイックジェル 2項目試料調整ローラー	J680
クイックジェル 温障箱	J4062
クイックジェル 染脱色容器	J656
展開板	J670
ピペット	

2. 測定操作法 ※

試料量	CH 20μL・TG 40μL
塗布位置	3
塗布回数	3回
泳動電圧	220V
泳動温度(電子冷却式チャンバー使用)	20℃
泳動時間	15分間
反応温度	37℃
反応時間	15分間
固定時間	10分間
水洗時間	20分間
乾燥温度	約55℃
乾燥時間	約20分間

3. 準備 ※

(1) 試薬の調製

1) 酵素剤CHを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試薬CHとする。

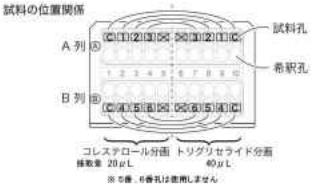
2) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試薬TGとする。

＊試薬を溶解する際は激しく振ったりしないように、使用前に完全に溶解する。
2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

(2) 試料の準備

サンプルプレートの試料孔1～4番はCH分画を、7～10番はTG分画をA列B列共に行う。図のようにHDLコレステロールコントロール(C)及び試料を、CH分画は20μL、TG分画は40μLずつ採る。

試料の位置関係



(3) 反応停止液の準備

5%(v/v)酢酸を調製し、染脱色容器に約250mL入れる。

(4) I.O.Dの用意

I.O.Dのドライヤー部を55℃、インキュベーター部を37℃にセットする。

4. 電気泳動 ※

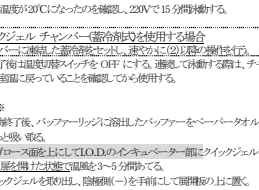
クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。

(1) クイックジェル チャンバー Pの電源を入れ、温度切替スイッチが OFF であることを確認する。

(2) クイックジェルとチャンバーの密着を良くするため、チャンバーの上にREP－prepを約5mLのせる。

(3) クイックジェルLIPOをアルミ袋から取り出してカセットからゆっくりと剥がし、陰極側(－)が左側になるようにチャンバーにセットする。チャンバーとの間に気泡が入らない様ゆっくりと置き、余分なREP－prepはペーパータオル等で拭き取る。

(4) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を均一に吸い取り、直ぐに取り除く。



(5) クイックジェル アプリケーターの塗布位置を"3"に合わせる。

(6) アプリケーターに、試料を採取したサンプルプレートとアプリケーターチップをセットし、チャンバーにのせる。

(7) アプリケーターの取っ手を左に動かし、チップを試料に5秒間受け。取っ手を右に動かしてチップを引き上げ、さらに右に動かして試料を塗布する。

＊チップを試料から引き上げる速さは塗布量に影響します。常に一定の速さで操作するように注意してください。

(8) 2分間静置後、取っ手を左に動かしスタンバイ位置に戻す。

(9) この操作を繰り返し、3回塗布する。

(10) アプリケーターをチャンバーから取り外す。

(11) 電極端をセットしてチャンバーの蓋を閉め、温度切替スイッチを 20℃にする。温度が20℃になったのを確認し、220Vで15分間泳動する。

クイックジェル チャンバー(蓋冷却式)を使用する場合
チャンバーに連結した蓋冷却器をセットし、速やかに(2)以降の操作を行う。

◇泳動終了後は温度切替スイッチを OFF にする。連続して泳動する際は、チャンバーが室温に戻っていることを確認してから使用する。

5. 反応 ※

(1) 泳動終了後、バッファーリッジに溶出したバッファーをペーパータオル等でそっと吸い取る。

(2) アガロース面を上にしてI.O.Dのインキュベーター部にクイックジェルを入れ、暖を開けた状態で温風を3～5分間かける。

(3) クイックジェルを取り出し、陰極側(－)を手前にして展開板の上に置く。

(4) 2項目試薬調整ローラーを用いて、反応試液TG300μLを右側の泳動面(TG側)の陰極側に少しずつ滴下しながら展開する。左側の泳動面(CH側)に試薬がはみ出さない様に注意しながら試薬が完全に現反応されるまで展開する約10任秒。

(5) 同様に反応試液CH300μLを、左側の泳動面に展開する約10任秒。

＊五いの試薬が混ざらない様に注意して展開してください。また、使用後の展開ローラーは水できれいに洗浄し、乾燥させてください。

(6) クイックジェルを展開板から剥がして温障箱に入れ、I.O.Dのインキュベーター部で15分間反応させる。

6. 反応停止及び乾燥 ※

(1) 反応終了後、温障箱からクイックジェルを取り出し、3.(3)で調整した反応停止液に10分間入れて反応を停止させる。

(2) 染脱色容器に水を約250mL 入れ、クイックジェルを入れて20 分間洗浄する(その間2～3回水を交換する)。

(3) 洗浄後、両極のバッファーリッジを取り除く。

(4) アガロース面を上にしてI.O.Dのドライヤー部で完全に乾燥させる。

7. 測定

乾燥が終了したクイックジェルをデンシトメーターで測定する。

【測定結果の判定法】 ※※

基準範囲(正常参考値)

109 名の健康診断受診者、総CH濃度が123～220mg/dL の場合(当社データ)

	分画値	濃度
HDL－CH	19.9 ～ 50.9 %	36.8 ～ 94.3 mg/dL
VLDL－CH	1.3 ～ 14.5 %	2.6 ～ 24.6 mg/dL
LDL－CH	42.3 ～ 75.2 %	65.6 ～ 154.9 mg/dL

この値を参考に、あらかじめ各施設で設定してください。

＊サイズの大きいカイロミクロンや残渣が、塗布位置に数々出現することがあります。

【性能】

1. 感度

精製水を試料として測定する時、CH分画は検出されない。

総濃度40mg/dL(±10%)の血清を試料として測定する時、CH分画が測定できる。

また、単一の染色帯としては5mg/dLから測定可能である。

2. 正確性

既知分画値が管理血清を測定する時、測定値は既知分画値のHDL－CHが85～115%、(VLDL－CH＋LDL－CH)が85～115%である。

3. 同時再現性

同一試料を20 回同時に測定する時、分画値のCV値はHDL－CHが 5%以下、VLDL－CHが8%以下、LDL－CHが5%以下である。

4. 測定範囲

本キットにおけるCH分画の測定範囲は、40～400mg/dL である。

5. 相関性

本法と、タイタン ジェル S－コレステロール＊との相関性を検討したところ、回帰式および相関係数は以下の通りであった。

＊コレステロール脱水酵素酵素により水ルマザンを生成させる方法

HDL－CH	Y＝1.02X－0.87	r＝0.99
VLDL－CH	Y＝0.98X＋0.13	r＝0.98
LDL－CH	Y＝1.02X－0.97	r＝0.99

X:タイタン ジェル S－コレステロール
Y:コレトリコンボ CH (n=86)

【使用上又は取扱上の注意】

1. 使用上の注意

(1) 有効期限の切れた試薬は使用しない。

(2) 試薬は冷蔵庫(2～8℃)で保存する。

(3) ロットの異なる試薬を組み合わせて使用しない。また、同一ロットの試薬であっても試薬は注ぎ足すことは行はない。

(4) クイックジェル LIPO 1袋に、支持膜が2枚入っている。開封後の未使用品は、アルミ袋に精製水0.5mLを注入した後セロハンテープ等で密封して所定条件で保存し、2週間以内に使用する。

(5) 先端が曲がっているアプリケーターチップは使用しない。

2. 取扱上の注意

(1) 試料はHIV, HBV, HCV等の感染のおそれがあるものとして取扱う。

(2) 検査にあたっては感染の危険性をさけるため使い捨て手袋を着用する。

(3) 試薬が眼って目やにに入った場合には、水で十分洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受ける。

3. 廃棄上の注意

(1) 原液、使用済み器具などは感染性産業廃棄物として処理するか、次亜塩素酸ナトリウム(有効塩素濃度 1000ppm、1 時間以上浸漬 またはグルタルアルデヒド(2%、1 時間以上浸漬 による消毒処理、あるいはオートクレーブ(121℃、20 分間)上による滅菌処理をする。

(2) 試薬及び器具等を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃法 に関する法律」に従った適正な処理をする。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法　2～8℃で保存
2. 有効期間　1ヶ年(期限は外箱に表示)

【包装単位】

コレトリコンボ CH　(Cat.No.J818) 1.0mL 用×10 本

【主要文献】

1. 中里功, 他 脂質電気泳動に用いる血清検体の保存方法について. 第15回サンプリング研究会 講演要旨集, 74-76(2001).
2. Rhoads G.G., et al. SERUM LIPOPROTEINS AND CORONARY HEART DISEASE IN A POPULATION STUDY OF HAWAII JAPANESE MEN. *New Engl. J. Med.* 294, 293-298 (1976).
3. Castelli W.P., et al. HDL Cholesterol and Other Lipids in Coronary Heart Disease, The Cooperative Lipoprotein Phenotyping Study. *Circulation* 55, 767-772 (1977).
4. Kannel W.B., et al. Cholesterol in the Prediction of Atherosclerotic Disease, New Perspectives Based on the Framingham Study. *Ann. Intern. Med.* 90, 85-91 (1979).
5. 脂肪酸系、虚血性心疾患の成因に関する臨床的研究－脂質代謝と冠状動脈硬化度の相関性について－. 日内会誌 70, 68-80 (1981).

【問い合わせ先】

株式会社ヘレナ研究所 営業部及び薬品部
TEL 0488333208　FAX 0488333273

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

株式会社ヘレナ研究所
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-21-19

HELENA LABORATORIES

ID.309
36152/1812(6)

体外診断用医薬品
認証番号 21100AMZ00704000

2019 年 2 月改訂（第 6 版） ※今回改訂
2015 年 12 月改訂（第 5 版）※前回改訂

ご使用の前に本添付文書をよくお読みください

クラスⅡ生化学検査用シリーズ「コレトリコンボ」
トリグリセライド分画キット

コレトリコンボ TG（QG）

【全般的な注意】

1. 本製品は体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 診断は、他の関連する検査結果や臨床状態に基づいて総合的に判断してください。
3. 添付文書以外の使用方法については保証を致しません。
4. 使用する機器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

【形状・構造等（キットの構成）】

Cat.No.J819 コレトリコンボ TG

1. 酵素剤TG ……	1.0mL 用	10 本
リポプロテインリパーゼ		600 U/mL*
グリセロールキナーゼ		0.8 U/mL*
グリセロール-3-リン酸酸化水酵素		12.0 U/mL*
ジアホラーゼ		10.0 U/mL*
NAD（ニコチンアミド アデニン ジヌクレオチド）		22.3 mmol/L*
ATP（アデノシン-5'-3リン酸）		10.9 mmol/L*
NTB（ニトロテトラゾリウムブルー）		3.7 mmol/L*
2. 溶酵素TG ……	10mL	1 本

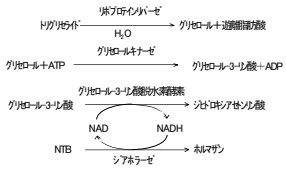
＊試薬調製後の濃度

【使用目的】

血清中のトリグリセライド分画の測定

【測定原理】

アガロースプレートを支持体として、電気泳動法により血清中のリポ蛋白を分離する。泳動後のアガロースプレートに試薬を含ませて、リポ蛋白中のトリグリセライド（TG）から下記の反応によって生成するホルマザンを測定する。



【操作上の注意】

1. 測定試料の性質及び採取法
   (1) 早期診断時、12～16 時間絶食後に採血する。
   (2) 試料は血清とする。採血から血清分離までの操作は迅速に行う。分離剤使用の試料は 2～8℃の冷蔵庫に入れ、24 時間以内に測定する。
   (3) やむをえず試料を保存する場合は、DMSO（ジメチルスルホキシド）を終濃度 5%になるように添加し、-80℃で保存することにより、泳動像の変化を抑えられる[1]。
   (4) 溶血した状態の試料は用いない。
   (5) ヘパリンを抽出した後に採血した試料は、遊離脂肪酸の上昇による泳動像の変化が起こることがある。
   (6) 試料を希釈する際には遊離脂肪酸の影響を抑えるため、3%精製ウシアルブミン添加リン酸バッファー（pH7.2）、又は当社CK/LDコントロール（Cat.No.5134）溶解液を用いる。この際、希釈の影響により試料の移動度の変化が起こることがあるため、コレステロール（CH）上トリグリセライドでは同じ希釈倍率の試料を用いて検査を行うこと。

2. 妨害物質、妨害薬剤等
   (1) 界面活性剤の影響により泳動像が乱れるおそれがあるため、器具の洗浄に洗剤を使用した後は、充分水ですすぎ落とすこと。
   (2) 正常人血清において塗布孔の陽極側に内因性の遊離グリセロールの発色がみられることがある。

【用法・用量（操作方法）】※

1. エパライザ2（TG分画）
2. エパライザ2（コレトリコンボ）
3. エパライザ2 ジュニア（TG分画）
4. エパライザ2 ジュニア（コレトリコンボ）
5. 用手法（TG分画）
6. 用手法（コレトリコンボ）

＊コレトリコンボとは、1枚の支持体でコレステロール分画上トリグリセライド分画の同時測定を行う操作法です。コレステロール分画測定試薬の性能は、"コレトリコンボ CH"の添付文書を参照してください。

1. エパライザ2（TG分画）

エパライザ2（蛋白分画電気泳動分析装置）では、登録したパラメータに従い試料の塗布、電気泳動、試薬の展開・反応、測定、分画画像の算出まで自動で行います。機器の操作方法及び設定条件（泳動パラメータ）等の入力方法については取扱説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器

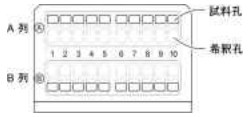
(1) 試薬		Cat.No.
コレトリコンボ TG	(1.0mL 用×10 本)	J819
クイックジェル LIPO	(10 枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL 用×5 本)	5063
エパライザープレップ	(240mL×1 本)	J416
	(240mL×4 本)	J417
酢酸		
(2) 機器		
エパライザ2		
ピペット		

2. 電気泳動パラメータの確認
   ホルダー番号割り当てをクリックし、『トリグリセライド』の泳動パラメータの確認を行う。

処理動作	処理2
1 列の検体数	10
塗布列	2
塗布位置	No.4DX20
塗布回数	4
サンプリング時間 (mmss)	00:05
試料溶液具合	ふつう
塗布時間 (mmss)	湿度で可変
---20%	01:20
20.1%---40%	01:40
40.1%---60%	02:20
60.1%---	03:00
泳動時間 (mmss)	14:00
泳動電圧(V)	250
泳動温度(℃)	20
冷却時間 (mmss)	04:00
試薬量(μL)	600
試薬番号	2
Mix 処理 試薬番号	---
試薬滴下回数	1
試薬調整回数	18
染色時間 (mmss)	--:--
反応時間 (mmss)	15:00
反応温度 (℃)	30
脱色・固定液タイプ	脱色1
脱色・固定時間 (mmss)	12:30
注入時間 (mmss)	00:07
放置時間 (mmss)	01:00
排出時間 (mmss)	00:15
サイクル	10
乾燥時間 (mmss)	12:00
乾燥温度 (℃)	75

3. 試薬及び準備の準備
   (1) 試薬の準備
   1) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試薬TGとする。
   ＊試薬は溶解する際は激しく振らないようにし、使用前に完全に溶解する。2～8℃で遮光して保存する時、1 日間安定である。
   2) 試薬瓶の"試薬番号"2"の位置に反応試薬TGをセットする。

   (2) 試料の準備
   1) 試料 30μL をサンプルプレートの試料列A列1番から順に採る（各列の1番には HDLコレステロールコントロールを採る）。
   2) 試料を採ったサンプルプレートに乾燥防止用プレートを重ね、サンプルウェルプレート庫（未検査）にセットする（下から順に処理される）。



   (3) 反応停止液の準備
   20%(v/v)酢酸 1000mL を調製し、脱色1容器に入れる（使用時の濃度は約2%(v/v)である）。

4. 支持体の準備 ※※
   クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。
   (1) 必要な枚数分のクイックジェルをアルミ袋から取り出し、カセットからゆっくりと剥がす（注入孔2ヶ所の突起内のゲルは取り除いてください。）。
   1枚目等、カセットから剥がしてすぐに使用する場合はブロッターEを泳動面にのせて表面の余分な水分を均一に吸い取り、直ぐに取り除く。
   (2) 陽極側のバッファーリッジに、ブロッターEを気泡が入らないように貼り付ける。

   (3) アガロース面を下に向けてプレートホルダーにセットし、プラスチック面についている余分なバッファーを濡れたペーパータオル等で拭きとる。

   (4) アガロース面を上に向け、プレートホルダーを重ねる。
   (5) プレートホルダーの番号を手前に向けてホルダー庫の中にセットする（複数枚セットする場合は、乾燥防止のため一番上にホルダーカバーを重ねてください。）。

5. 測定
   (1) スタート前確認画面を表示する。検査項目「トリグリセライド」を選択し、画面に従って確認を行う。
   (2) 全ての準備が完了するとスタートが表示されるので、クリックして検査を開始する（塗布から測定まで自動で行う）。

◇測定後のクイックジェルを保存する場合
クイックジェル両極のバッファーリッジを取り除き、30 分間水洗後に乾燥させてください（細菌によるバックグラウンドが染まるのを防止します）。

2. エパライザ2（コレトリコンボ）

エパライザ2（蛋白分画電気泳動分析装置）では、登録したパラメータに従い試料の塗布、電気泳動、試薬の展開・反応、測定、分画画像の算出まで自動で行います。機器の操作方法及び設定条件（泳動パラメータ）等の入力方法については取扱説明書を参照してください。
「エパライザ2」がこの操作法に対応していない場合があります。お手数ですが、事前に弊社営業担当者までご連絡ください。

1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬		Cat.No.
コレトリコンボ CH/TG		J817
コレトリコンボ CH	(1.0mL 用×10 本)	J818
コレトリコンボ TG	(1.0mL 用×10 本)	J819
クイックジェル LIPO	(10 枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL 用×5 本)	5063
エパライザープレップ	(240mL×1 本)	J416
	(240mL×4 本)	J417
酢酸		
(2) 機器		Cat.No.
エパライザ2		
2項目試薬調整ローラー E2		J665
ピペット		

2. 電気泳動パラメータの確認
   ホルダー番号割り当てをクリックし、『コレトリコンボ』の泳動パラメータの確認を行う。

処理動作	処理2
1 列の検体数	5
塗布列	2
塗布位置	No.4DX20
塗布回数	3
サンプリング時間 (mmss)	00:05
試料溶液具合	ふつう
塗布時間 (mmss)	湿度で可変
---20%	01:20
20.1%---40%	01:40
40.1%---60%	02:20
60.1%---	03:00
泳動時間 (mmss)	14:00
泳動電圧(V)	250
泳動温度(℃)	20
冷却時間 (mmss)	04:00
試薬量(μL)	270
試薬番号	1and2
Mix 処理 試薬番号	---
試薬滴下回数	1
試薬調整回数	18
染色時間 (mmss)	--:--
反応時間 (mmss)	15:00
反応温度 (℃)	30
脱色・固定液タイプ	脱色1
脱色・固定時間 (mmss)	12:30
注入時間 (mmss)	00:07
放置時間 (mmss)	01:00
排出時間 (mmss)	00:15
サイクル	10
乾燥時間 (mmss)	12:00
乾燥温度 (℃)	75

3. 試薬及び準備の準備
   (1) 試薬の調製
   1) 酵素剤CHを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試薬CHとする。
   2) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試薬TGとする。
   3) 試薬瓶の"1"の位置に反応試薬CH、"2"の位置に反応試薬TGをセットする。
   ＊試薬は溶解する際は激しく振らないようにし、使用前に完全に溶解する。2～8℃で遮光して保存する時、1 日間安定である。

3. エパライザ2 ジュニア（TG分画）

エパライザ2 ジュニア（蛋白分画電気泳動分析装置）では、登録したパラメータに従い試料の塗布、電気泳動、試薬の展開・反応、測定、分画画像の算出まで自動で行います。
機器の操作方法については取扱説明書を参照してください。

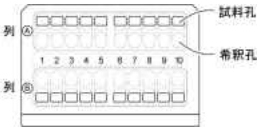
1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬		Cat.No.
コレトリコンボ TG	(1.0mL 用×10 本)	J819
クイックジェル LIPO	(10 枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL 用×5 本)	5063
REP－prep	(240mL×1 本)	J409
	(240mL×4 本)	J3100
酢酸		
(2) 機器		
エパライザ2 ジュニア		
ピペット		

2. 電気泳動パラメータ ※
   ＊検査項目名にマウスカーソルを合わせると表示されます。

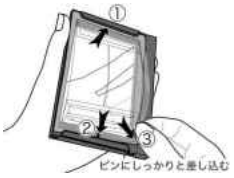
処理モード	処理3
検体数／列	10
塗布列	2
塗布位置	No.4
塗布回数	4
サンプリング時間 (mmss)	00:05
採取量	ふつう
塗布時間(mmss)	
---20%	01:20
20.1%---40%	01:40
40.1%---60%	02:20
60.1%---	03:00
泳動時間 (mmss)	14:00
泳動電圧(V)	250
泳動温度(℃)	20
冷風ファン	ON
冷却時間(% mmss)	
---20%	01:30
20.1%---40%	02:00
40.1%---60%	02:30
60.1%---	03:00
試薬調整回数	12
試薬調整停止時間	0:01
試薬調整温度(℃)	30
反応・染色時間 (mmss)	10:00
反応・染色温度 (℃)	30
脱色・固定時間 (mmss)	10:00
注入時間 (mmss)	00:40
放置時間 (mmss)	02:00
排出時間 (mmss)	00:40
サイクル	3
脱色・固定容器	1
乾燥時間(mmss)	14:00
乾燥温度(℃)	70

3. 準備
   検査項目リストから『トリグリセライド分画』を選択し、「スタート前の準備項目リスト」に従って準備を行う。
   (1) サンプルプレート＆番号
   1) 試料30μL をサンプルプレートの試料列A列1番から順に採る（各列の1番には HDLコレステロールコントロールを採る）。
   2) 乾燥防止板を重ねて搬送台にセットし、サンプルプレート番号を入力する。



   (2) チャンバー蓋
   ステーション1側の泳動カバートレイに泳動カバーがセットされていることを確認する。
   ＊泳動カバーはホルダーの上にセットしてスタートすることも可能です。
   (3) アプリケーターチップ
   アプリケーターチップ 2 枚をアプリケーターユニットにセットする。
   (4) 試薬&ローラー
   1) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試薬TGとする。
   ＊試薬を溶解する際は激しく振らないように、使用前に完全に溶解する。2～8℃で遮光して保存する時、1 日間安定である。
   2) 試薬カップに反応試薬TGを700μL 採り、試薬台"2"の穴にセットする。
   3) 試薬調整ローラーをセットする。
   (5) ホルダー ※ ※※
   クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。
   1) REP－prep約0.5mLをステーション1の冷却槽にのせる。
   2) クイックジェルをアルミ袋から取り出し、カセットからゆっくりと剥がす（注入孔2ヶ所の突起内のゲルは取り除いてください。）。
   3) ブロッターEを泳動面にのせて表面の余分な水分を吸い取り、直ぐに取り除く。

   4) アガロース面を下に向けてプレートホルダーにセットし、プラスチック面についている余分なバッファーを濡れたペーパータオル等で拭きとる。



   5) アガロース面を上に向け、冷却槽との間に気泡が入らないように静かにゆっくりと置く。
   6) 必要に応じてQG認識番号を入力する。
   (6) 容器1（固定）
   2%(v/v)酢酸を調製し、容器1に入れる。

4. 測定
   全ての準備が完了するとスタートが表示されるので、クリックして検査を開始する（塗布から測定まで自動で行う）。

◇測定後のクイックジェルを保存する場合
クイックジェル両極のバッファーリッジを取り除き、30 分間水洗後に乾燥させてください（細菌によるバックグラウンドが染まるのを防止します）。

4. エパライザ2 ジュニア（コレトリコンボ）

エパライザ2 ジュニア（蛋白分画電気泳動分析装置）では、登録したパラメータに従い、検体の塗布、電気泳動、試薬の調整・反応、測定、分画値の算出まで自動で行います。
機器の操作方法については取扱説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ CH/TG		J817
コレトリコンボ CH	(1.0mL用×10本)	J818
コレトリコンボ TG	(1.0mL用×10本)	J819
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
エパライザ2 ジュニア	
2項目試薬調整ローラー E2	J665
ピペット	

2. 電気泳動パラメータ ※

＊検査項目名にマウスカーソルを合わせると表示されます。

処理モード	処理3
検体数／列	5
塗布列	2
塗布位置	No.4
塗布回数	2
サンプリング時間 (mm:ss)	00:05
採取量	ふつう
塗布時間(mm:ss)	
---20%	01:20
20.1%---40%	01:40
40.1%---60%	02:20
60.1%---	03:00
泳動時間 (mm:ss)	14:00
泳動電圧(V)	250
泳動温度(℃)	20
冷風ファン	ON
冷却時間(hh:mm:ss)	
---20%	01:30
20.1%---40%	02:00
40.1%---60%	02:30
60.1%---	03:00
試薬調整数	12
試薬調整停止時間	0:01
試薬調整温度(℃)	30
反応・染色時間 (mm:ss)	10:00
反応・染色温度 (℃)	30
脱色・固定時間(mm:ss)	10:00
注入時間 (mm:ss)	00:40
放置時間 (mm:ss)	02:00
排出時間 (mm:ss)	00:40
サイクル	3
脱色・固定容器	1
乾燥(時間(mm:ss)	14:00
乾燥(温度(℃)	70

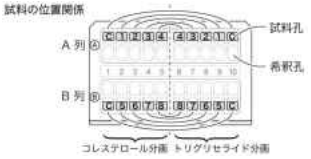
3. 準備

検査項目リストから「コレトリコンボ」を選択し、「スタート前の準備項目リスト」に従って準備を行う。

(1) サンプルプレート&番号

1) サンプルプレートの試料孔1～5番はCH分画を、6～10番はTG分画をA列B列共に行う。図のようにHDLコレステロールコントロール(C)及び患者検体を、CH分画は20μL、TG分画は40μLずつ採る。

試料の位置関係



2) 乾燥加湿板を垂直で搬送台にセットし、サンプルプレート番号を入力する。

(2) チャンバー蓋

ステーション1奥の泳動カバートレイに泳動カバーがセットされていることを確認する。

＊泳動カバーはホルダーの上にセットしてスタートすることも可能です。

(3) アプリケーターチップ

アプリケーターチップ2枚をアプリケーターユニットにセットする。

(4) 試薬&ローラー

1) 酵素剤CHを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試液CHとする。

2) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試液TGとする。

3) 試薬カップに反応試液CHを320μL投入し、試薬台"1"の穴にセットする。

4) 試薬カップに反応試液TGを320μL投入し、試薬台"3"の穴にセットする。

5) 2項目試薬調整ローラーをセットする。

＊試薬を溶解する際は激しく振らないように、使用前に完全に溶解する。

2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

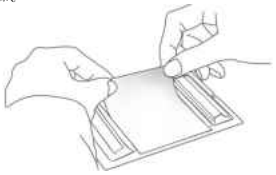
(5) ホルダー ※ ※※

クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。

1) REP－prep約0.5mLをステーション4の冷却槽にのせる。

2) クイックジェルをアルミ袋から取り出し、カセットからゆっくりと剥がす(注入孔2ヶ所の突起がツボに収まるように取り除いてください)。

3) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を吸い取り、直ぐに取り除く。



4) アガロース面を下に向けてプレートホルダーにセットし、プラスチック面についている余分なバッファーを濡らしたペーパータオル等で拭きとる。

5) アガロース面を上に向けて冷却槽上の間に気泡が入らない様にゆっくりと置く。

6) 必要に応じてQC認識番号を入力する。

(6) 容器1(固定)

2%(v/v)酢酸を調製し、容器1に入れる。

4. 測定

全ての準備が完了すると スタート が表示されるので、クリックして検査を開始する(塗布から測定まで自動で行う)。

◇測定後のクイックジェルを保存する場合

クイックジェル両極のバッファーリッジを取り除き、30分間水洗後に乾燥させてください(細菌がバックグラウンドが染まるのを防止します)。

5. 用手法（TG分画）

機器及び器具の操作方法については取扱説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ TG	(1.0mL用×10本)	J819
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
クイックスキャン	
I.O.D.	J160
タイタンプラス パワーサプライ	1504
クイックジェル チャンバー P(電子冷却式)	J678
又は クイックジェル チャンバー(蓄冷剤式)	J675
クイックジェル アプリケーター	J653
アプリケーターチップ	J636
サンプルプレート E2	J637
クイックジェル 試薬調整ローラー	J657
クイックジェル 湿潤箱	J4062
クイックジェル 染脱色容器	J656
展開板	J670
ピペット	

2. 測定操作法

試料量	30μL
塗布位置	3
塗布回数	4回
泳動電圧	220V
泳動温度(電子冷却式チャンバー使用)	20℃
泳動時間	15分間
反応温度	37℃
反応時間	15分間
固定時間	10分間
水洗時間	20分間
乾燥温度	約55℃
乾燥時間	約20分間

3. 試薬及び準備の準備 ※

(1) 試薬の調製

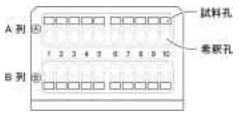
酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試液TGとする。

＊試薬を溶解する際は激しく振らないように、使用前に完全に溶解する。

2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

(2) 試料の準備

試料30μLをサンプルプレートの試料孔A列1番から順に採る(各列の1番には常にHDLコレステロールコントロールを採る)。



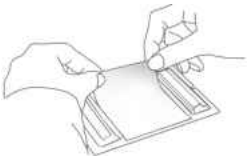
(3) 反応停止液の準備

5%(v/v)酢酸を調製し、染脱色容器に約250mL入れる。

(4) I.O.D.の用意

I.O.D.のドライヤー部を55℃、インキュベーター部を37℃にセットする。

(4) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を均一に吸い取り、直ぐに取り除く。



(5) クイックジェル アプリケーターの塗布位置を"3"に合わせる。

(6) アプリケーターに、試料を採取したサンプルプレートとアプリケーターチップをセットし、チャンバーにのせる。

(7) アプリケーターの取っ手を右に動かし、チップを試料に5秒間浸す。取っ手を右に動かしてチップを引き上げ、さらに右に動かして試料を塗布する。

＊チップを試料から引き上げる速さは塗布量に影響します。常に一定の速さで操作するように注意してください。

(8) 2分間静置後、取っ手を左に動かしスタンバイ位置に戻す。

(9) この操作を繰り返し、4回塗布する。

(10) アプリケーターをチャンバーから取り外す。

(11) 電極棒をセットしてチャンバーの蓋を閉め、温度切替スイッチを20℃にする。温度が20℃になったのを確認し、220Vで15分間泳動する。

クイックジェル チャンバー(蓄冷剤式)を使用する場合

チャンバーに装填した蓄冷剤をセットし、速やかに(2)以降の操作を行う。

◇泳動終了後、温度切替スイッチを OFF にする(または蓄冷剤を取り外す)。

連続して泳動する場合は、チャンバーが室温に戻っていることを確認してから使用する。

5. 反応 ※

(1) 泳動終了後、クイックジェルをチャンバーから取り出す(バッファーリッジにバッファーが溜まっていたらペーパータオル等でそっと吸い取る)。

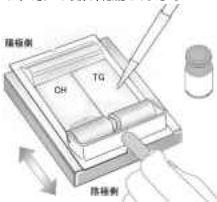
(2) アガロース面を上にしてI.O.D.のインキュベーター部にクイックジェルを入れ、扉を開けた状態で温風を3～5分間当てる。

(3) クイックジェルを取り出し、陰極側(－)を手前にして展開板の上に置く。

(4) 2項目試薬調整ローラーを用いて、反応試液TG300μLを右側の泳動面(TG側)の陰極側に少しずつ滴下しながら、展開する。左側の泳動面(CH側)に試薬がはみ出ない様に注意しながら、試薬が完全に吸収されるまで展開する(約10往復)。

(5) 同様に反応試液CH300μLを、左側の泳動面に展開する(約10往復)。

＊五いの試薬が混ざらない様に注意して展開してください。また、使用後の展開ローラーは水できれいに洗浄し、乾燥させてください。



(6) クイックジェルを展開板から剥がして湿潤箱に入れ、I.O.D.のインキュベーター部で15分間反応させる。

6. 用手法（コレトリコンボ）

機器及び器具の操作方法については取扱説明書を参照してください。

1. 使用試薬及び機器 ※

(1) 試薬

		Cat.No.
コレトリコンボ CH／TG		J817
コレトリコンボ CH	(1.0mL用×10本)	J818
コレトリコンボ TG	(1.0mL用×10本)	J819
クイックジェル LIPO	(10枚)	J715
HDLコレステロールコントロール	(1mL用×5本)	5063
REP－prep	(240mL×1本)	J409
	(240mL×4本)	J3100
酢酸		

(2) 機器

	Cat.No.
クイックスキャン	
I.O.D.	J160
タイタンプラス パワーサプライ	1504
クイックジェル チャンバー P(電子冷却式)	J678
又は クイックジェル チャンバー(蓄冷剤式)	J675
クイックジェル アプリケーター	J653
アプリケーターチップ	J636
サンプルプレート E2	J637
クイックジェル 2項目試薬調整ローラー	J680
クイックジェル 湿潤箱	J4062
クイックジェル 染脱色容器	J656
展開板	J670
ピペット	

2. 測定操作法

試料量	CH 20μL・TG 40μL
塗布位置	3
塗布回数	3回
泳動電圧	220V
泳動温度(電子冷却式チャンバー使用)	20℃
泳動時間	15分間
反応温度	37℃
反応時間	15分間
固定時間	10分間
水洗時間	20分間
乾燥温度	約55℃
乾燥時間	約20分間

3. 準備 ※

(1) 試薬の調製

1) 酵素剤CHを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液CHで溶解し、反応試液CHとする。

2) 酵素剤TGを、バイアルラベルに記載された所定量の溶解液TGで溶解し、反応試液TGとする。

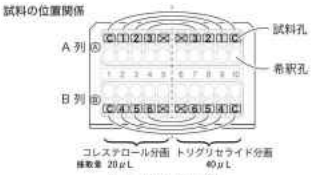
＊溶解する際は激しく振らないように、使用前に完全に溶解する。

2～8℃で遮光して保存する時、1日間安定である。

(2) 試料の準備

サンプルプレートの試料孔1～4番はCH分画を、7～10番はTG分画をA列B列共に行う。図のようにHDLコレステロールコントロール(C)及び患者検体を、CH分画は20μL、TG分画は40μLずつ採る。

試料の位置関係



(3) 反応停止液の準備

5%(v/v)酢酸を調製し、染脱色容器に約250mL入れる。

(4) I.O.D.の用意

I.O.D.のドライヤー部を55℃、インキュベーター部を37℃にセットする。

4. 電気泳動 ※

クイックジェルを冷蔵している場合は室温に戻してから操作を行ってください。

(1) クイックジェル チャンバー Pの電源を入れ、温度切替スイッチが OFF であることを確認する。

(2) クイックジェルとチャンバーの密着を良くするため、チャンバーの上にREP－prepを約0.5mLのせる。

(3) クイックジェルLIPOをアルミ袋から取り出してカセットからゆっくりと剥がし、陰極側(－)が左側になるようにチャンバーにセットする。チャンバーとの間に気泡が入らない様ゆっくりと置き、余分なREP－prepはペーパータオル等で拭きとる。

(4) ブロッターFを泳動面にのせて表面の余分な水分を均一に吸い取り、直ぐに取り除く。

(5) クイックジェル アプリケーターの塗布位置を"3"に合わせる。

(6) アプリケーターに、試料を採取したサンプルプレートとアプリケーターチップをセットし、チャンバーにのせる。

(7) アプリケーターの取っ手を左に動かし、チップを試料に5秒間浸す。

取っ手を右に動かしてチップを引き上げ、さらに右に動かして試料を塗布する。

＊チップを試料から引き上げる速さは塗布量に影響します。常に一定の速さで操作するように注意してください。

(8) 2分間静置後、取っ手を左に動かしスタンバイ位置に戻す。

(9) この操作を繰り返し、3回塗布する。

(10) アプリケーターをチャンバーから取り外す。

(11) 電極棒をセットしてチャンバーの蓋を閉め、温度切替スイッチを 20℃にする。温度が20℃になったのを確認し、220Vで15分間泳動する。

クイックジェル チャンバー(蓄冷剤式)を使用する場合

チャンバーに装填した蓄冷剤をセットし、速やかに(2)以降の操作を行う。

◇泳動終了後、温度切替スイッチを OFF にする。連続して泳動する際は、チャンバーが室温に戻っていることを確認してから使用する。

5. 反応 ※

(1) 泳動終了後、バッファーリッジに溜まったバッファーをペーパータオル等でそっと吸い取る。

(2) アガロース面を上にしてI.O.D.のインキュベーター部にクイックジェルを入れ、扉を開けた状態で温風を3～5分間当てる。

(3) クイックジェルを取り出し、陰極側(－)を手前にして展開板の上に置く。

(4) 2項目試薬調整ローラーを用いて、反応試液TG300μLを右側の泳動面(TG側)の陰極側に少しずつ滴下しながら、展開する。左側の泳動面(CH側)に試薬がはみ出ない様に注意しながら、試薬が完全に吸収されるまで展開する(約10往復)。

(5) 同様に反応試液CH300μLを、左側の泳動面に展開する(約10往復)。

＊五いの試薬が混ざらない様に注意して展開してください。また、使用後の展開ローラーは水できれいに洗浄し、乾燥させてください。

6. 反応停止及び乾燥 ※

(1) 反応終了後、湿潤箱からクイックジェルを取り出し、3.(3)で調製した反応停止液に10分間入れて反応を停止させる。

(2) 染脱色容器に水を約250mL入れ、クイックジェルを入れて20分間洗浄する(その間2～3回水を交換する)。

(3) 洗浄後、両極のバッファーリッジを取り除く。

(4) アガロース面を上にしてI.O.D.のドライヤー部で完全に乾燥させる。

7. 測定

乾燥が終了したクイックジェルをデンシトメーターで測定する。

【測定結果の判定法】

基準範囲(正常参考値)

109名の健康診断受診者、総TG濃度が35～135mg/dLの場合(当社データ)

	分画値	濃度
HDL－TG	6.4 ～ 26.0 %	5.2 ～ 23.1 mg/dL
VLDL－TG	18.3 ～ 72.2 %	11.6 ～ 76.2 mg/dL
LDL－TG	16.6 ～ 57.4 %	17.2 ～ 60.1 mg/dL

この値を参考に、あらかじめ各施設で設定してください。

＊サイズの大きいカイロミクロンや残渣が、塗布位置に数%出現することがあります。

【性能】

1. 感度

精製水を試料として測定する時、TG分画は検出されない。

総濃度40mg/dL(±10%)の血清を試料として測定する時、TG分画が測定できる。また、単一の染色帯としては2mg/dLから測定可能である。

2. 正確性

既知分画値の管理用血清を測定する時、測定値と既知分画値のHDL－TGが90～120%、VLDL－TGが80～110%、LDL－TGが85～115%である。

3. 同時再現性

同一試料を20回同時に測定する時、分画値のCV値はHDL－TGが9%以下、VLDL－TGが5%以下、LDL－TGが6%以下である。

4. 測定範囲

本キットにおけるTG分画の測定範囲は、40～800mg/dLである。

5. 相関性

本法と、他社製品＊との相関性を検討したところ、回帰式および相関係数rは以下の通りであった。

＊グリセロール-3-リン酸酸化酵素酸素によりホルマザンを生成させる方法

HDL－TG	Y＝1.04X＋0.26	r＝0.98
VLDL－TG	Y＝0.97X＋0.62	r＝0.99
LDL－TG	Y＝0.97X＋1.57	r＝0.99

X：他社製品

Y：コレトリコンボ TG　(n=68)

【使用上又は取扱上の注意】

1. 使用上の注意

(1) 有効期限の切れた試薬は使用しない。

(2) 試薬は冷蔵庫(2～8℃)で保存する。

(3) ロットの異なる試薬を組み合わせて使用しない。また、同一ロットの試薬であっても試薬を注ぎ足すことは行はない。

(4) クイックジェル LIPO 1袋に、対角紙が2枚入っている。開封後の未使用品は、アルミ袋に精製水0.5mLを注入した後セロハンテープ等で密封して所定条件で保存し、2週間以内に使用する。

(5) 先端が細かいっているアプリケーターチップは使用しない。

2. 取扱上の注意

(1) 試料はHIV、HBV、HCV等の感染のおそれがあるものとして取扱う。

(2) 検査にあたっては感染の危険性をさけるため、皆で手袋を着用する。

(3) 試薬が眼やつ目やに入った場合には、水で十分洗 い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受ける。

3. 廃棄上の注意

(1) 廃液、使用済み器具などは感染性産業廃棄物として処理するか、次亜塩素酸ナトリウム(有効塩素濃度 1000ppm、1 時間以上浸漬 または グルタルアルデヒド(2%、1 時間以上浸漬 による消毒処理、あるいはオートクレーブ(121℃、20 分間以上)による滅菌処理をする。

(2) 試薬及び器具等を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃法 に関する法律」に従った適正な処理をする。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法　2～8℃で保存
2. 有効期間　1ヶ年(期限は外箱に表示)

【包装単位】

コレトリコンボ TG　(Cat.No.J819) 1.0mL 用×10 本

【主要文献】

1. 中里功, 他: 脂質電気泳動法に用いる血清検体の保存方法について. 第15回サンプリング研究会 講演抄録集, 74-76(2001).
2. 五島雄一郎編: わかやすい 脂質代謝とその異常, メディカルリビューン.
3. 武内宏昭, 佐伯修一: 血清リポ蛋白と動脈硬化症危惧因子, 血栓と循環 9, 33-39(2001).
4. 平野俊, 他: LDL粒子サイズと臨床的意義, Prog. Med. 18, 1915-1920(1998).
5. 貴堂とみ, 他: アガロースを電気泳動法によるリポ蛋白分析の臨床応用. *The Lipid* 9, 487-494(1998).
7. 浦田秋徳: 電気泳動法によるリポ蛋白分画法. 臨床検査 29, 1344-1352(1985).
8. 日本臨床病理学会: 日常初期診断における臨床検査の使い方 血清脂質異常と痛風(案), 1-15(1997).
9. 厚生省・日本動脈硬化編: 高脂血症 診断のてびき.

【問い合わせ先】

株式会社ヘレナ研究所　営業部又は薬品部

TEL.0488333208　FAX.0488333273

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

株式会社ヘレナ研究所

〒330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤9-21-19

HELENA LABORATORIES

ID.308

36153/1902(7)